

羨望の目にはたこみおても  
みごとに切りぬける、身の  
軽い、10歳ぐらいのインド

「ヒルを演じるのは、日本  
でもヒットした「きつと」  
のようなどころでの群舞も

(映画評論家 宇田川 幸洋)

二  
東京・

1時間57分。  
(映画評論家 村山 匡一郎)

# 夕刊文化

歴史学者

山内 昌之

5

## こころの玉手箱



スマホの歩数計

練度や技量を判定しないところが心地よい

先月、講演に出かけた中東のある国でのことだ。私が話している最中に聞き慣れた呼び出し音がいきなり会場で鳴り響いたので仰天した。スマートフォンである。ここでは珍しいことではなく、その後も何度か同じ情景が繰り返された。悪びれずに、私と同じくらいの声で会話を始めるのだ。

また、日本大使の招宴でも彼のすぐ隣にいた客が同じ音を受信して、大使の声を掻き消さんばかりに話したものだ。この国では特別におかしいわけでもないらしい。そういえば、「講演に先立ち皆様に携帯電話を

切るようをお願いしま—す」といった挨拶はついぞ聞いたことがなかった。

しかし、スマホの便利さは万国共通のようだ。私にとっていちばん嬉しいのは、健康データで歩数がすぐに表示される機能である。早朝散歩を日課として

いるからだ。

しかも、日週月年と表示され、1日平均もすぐ分かる。折れ線グラフを見ると、どの日が雨だったかも想像がつく。まず雨の日はほとんどでなければ散歩をしないから、歩数が格段に落ちるのだ。朝早くから開く近所のゴルフ練習場に出かけ

### 愛すべき努力測定器械

ず、素振りを一つもしなければ、健康データのすべてが良いはずがない。

それにしても、早朝5時半に起きて、アイアンやウッドを数本もって散歩がてらゴルフ練習を30分ほど出勤前にこなすのは爽快である。歩数計は正直なものだ。散歩もせず練習もしない雨の日は、昨日も今日も4、5千歩にすぎない。

ちなみに歩数計には散歩の練度とか技術点というものはつかない。健康データに身体測定値などが表示されても、スポーツの技量を判定する機能が入っていないのは、さらに嬉しい。

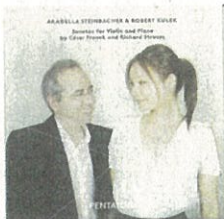
もっとも、測定も必要ないほど上達もせず、レベルの低い私のゴルフ能力には玉手箱となる器械も不要なのかもしれない。せめて、雨降りでもゴルフ場で歩く努力を測定できるスマホの歩数計だけは、次回に持参す(の)ことにしよう。

来週は陶芸家の加藤孝造氏です。

### ディスクレビュー

#### 情熱秘めるロマン派ソナタ

■「**フランク&R・シュトラウス「バイオリンソナタ」** ドイツ人の父と日本人の母を持つバイオリニスト、アラベラ・美歩・シュタインバッハーが、情熱を内に秘める2つのロマン派ソナタの魅力を引き出す。ピアノはロベルト・クーレック。スケールの大きなピアノの響きに乗せてバイオリンが優美な旋律をよどみなく流麗に鳴らす。「曲の流れを大切にしている。特にリヒャルト・シュトラウスのソナタはオペラ的。緩やかな第2楽章では歌手になったつもりで美しい旋律を弾いた」と話す。「公演の9割を占める協奏曲が演目の中心」と語り、欧州の管弦楽団との協演が多い。今年はルツェルン祝祭弦楽合奏団とモーツァルトの協奏曲のCDも出したが、「クーレックとは12年来のコンビ」と言うソナタでも存在感のある響きを聴かせる。(CD、キングインターナショナル)



■「**アルゲリッチ&バレンボイム デュオ「春の祭典」** 他 ブエノスアイレス生まれの幼なじみの2人がベルリンで久々に共演した4月19日ライブ録音。ストラビンスキー「春の祭典(2台ピアノ版)」が圧巻。変拍子が続く緊迫感みなぎる演奏を、低音域パートを受け持ったアルゲリッチがバランス良くまとめる。複雑な音響の舞いを一点のミスもなく浮き彫りにする。アルゲリッチは5月3日にも東京で酒井茜とこの曲を共演した。モーツァルトとシューベルトの2台ピアノのための曲も収録。(CD、ユニバーサル)



■「**華麗なるコロラトゥーラ 田中彩子** 欧州で活躍するソプラノ歌手、田中彩子がコロラトゥーラ(速く技巧的な声楽旋律)の魅力聴かせる。澄み切った高音域の歌声を12曲で堪能できる。共演はペーター・イレイニ指揮ブダペスト・アート交響楽団。オルフ「カルミナ・ブラーナ」の「てんびん棒に心をかけて」は透明な声が悠遠の広がりみせる。モーツァルト「魔笛」の「夜の女王の Aria」では精密な技巧を披露。メサジェやフロトーの珍しい歌も入り、高い美声を様々に楽しめる。(CD、エイベックス)



テレビ・ラジオ 8面に掲載